

歴史的な街並み「川越」

『まち歩きガイドブック東京+』（学芸出版社、2008年）という本がある。東京とその周辺のまち歩きに活用してきた。紹介されているのは掲載順に、下北沢、代官山、表参道、吉祥寺、川越、谷中・根津・千駄木、神楽坂、横浜関内、田端・西ヶ原・王子、三ノ輪・三河島である。「まち歩きルート」により散策できる。今回は「新旧の時代が共存し、躍動する街」川越であり、次のように案内されている。

池袋から電車で約30分、川越市に着く。川越は、江戸時代には川越藩の城下町として、また船運と街道によって江戸とつながり、商業都市としても栄えた街である。

川越には、明治時代に防災対策として建設された蔵造りの商家が建ち並ぶ重要伝統的建造物群保存地区（伝建）を中心に、大正・昭和の洋風・和風の歴史的建造物が多く存在し、特色ある歴史的景観を有している。伝建地区にマンション等が建ち並ぶ住宅地が隣接し、若い人が行き交う商店街クレアモールからも近いという、歴史的にも用途的にも幅転化し、多様性を持った珍しい街である。---多様性をひもとくと、この街ならではの魅力が見えてくる。

写真は今年4月に行ったときに撮ったものである。写真上は蔵造りの「一番街商店街」であり、豪壮な商家群が道に沿って並ぶ。改修中の商家も写っているが、長年にわたる蔵を活かしたまちづくりにより、重厚で統一感のある街並みを形成している。

次の写真は街のシンボルである「時の鐘」である。一番街の中ほどを東に入ると、伝統商家の街並みの中でひとときわ高い鐘楼が見えてくる。前の「鐘つき通り」も石貼舗装され、多くの人が散策している。

下の写真は、街の一角で「伝建」ってなに？という説明がされていた。川越のまちづくりの歩みを知るうえで参考になる。このほか洋風店舗や看板建築が並ぶ「大正浪漫通り」も味わいがある。石畳舗装された道の両側には、ファサード（建物の正面部分）を以前の姿に復元したり、レトロ調に改修した商店が並んでいる。川越は多様な歴史的な街並みを楽しめる。また、ゆっくりと散策したい。



(2014年9月20日)